

室伏は銀メダル



男子ハンマー投げ決勝で1投目を投げる室伏＝五輪スタジアム（代表撮影・共同）

投てき種目で日本人初

【アテネ二十一日共同】

アテネ五輪第十日の二十二日、陸上の男子ハンマー投げはアドリアン・ヌシユ（ハンガリー）が83メートル19で優勝。室伏広治（ミズノ）は最終6投目に82メートル91まで記録を伸ばしたが及ばず2位だった。日本選手が投てき種目で五輪メダルを獲得したのは初めて。

それでも「鉄人二世」にとつて、2度目の五輪は充実していた。ベスト8にも残れなかった前回シドニー五輪の惨敗から4年。スピード、パワー、そして技術をかみ合わせた高速の4回転投法を磨き上げ、一歩ずつ、着実に世界のトップへの階段を上ってきた。昨季は84メートル86の世界歴代3位の快記録をマーク。現役選手では最高記録を投げて自信を深めた。

ハンマー投げを本格的に始めたのは千葉・成田高入学後。アジア大会を5連覇し「アジアの鉄人」と呼ばれた重信コーチとの二人三脚で、世界一の座に限りなく近づいた。激闘を終えた室伏は、悔しさを押し殺し、4年後の北京五輪での雪辱をしっかりと見据えていた。